

NEW

ネ

ットワーク



Network Shimada

発行者

島田療育センター
院長 木実谷 哲史

～通信制・サポート校・特別支援学校(高等部)等～

合同学校説明会

(社会福祉士 湯本 和秀)

8月7日(日)に『～通信制・サポート校・特別支援学校(高等部)等～合同学校説明会』を実施しました。支援部では例年、就学や進学を控えたお子さんがいらっしゃるご家族向けに、情報交換会を実施しています。昨年度は、中学校卒業後の「進学・進路・就労を考えるときに理解しておきたいこと」と題して、特別支援学校、定時制高校、サポート校の3校の先生にお越しいただき、お話をさせていただきました。実施後のアンケートより、「もっと学校の話詳しく聞きたかった。」「もっといろんな学校の話聞きたい。」というご意見を多くいただき、高校進学やその先のことに、不安を抱えている保護者が多くいらっしゃることを実感しました。一度に複数の学校の話聞ける場を提供できないかと検討し、今年度は「合同学校説明会」という形で、様々な形態の学校に声をかけさせていただきました。そして、公私立の通信制や定時制、サポート校など合わせ13校の学校が、会の主旨に賛同していただきました。

いました。学校側のお話からも様々な特色ある取り組みを盛り込み取り入れながら、子どもたちに寄り添うような環境作りをしていると感じました。アンケートからは「一度に色々な学校の情報が、集められてよかった」という声を多くいただきました。同時にこれだけの情報を、お子さんや保護者が各々で動き、収集することは、相当なご負担があると感じました。参加して下さった学校の先生方からは、「学校のことを知ってもらう機会になってよかった」「たくさんの方に話を聞いてもらえてよかった」という声をいただきました。

義務教育期間である小・中学校の情報開示の場は、まだ十分とは言いがたいですが、定着はしているところもあります。しかし、高校以降の進学・就労の情報は、選択肢が多くなっている分、何がいいのか、どういうところがご本人に合っているのか、という悩みもまた抱えてしまっているのではないのでしょうか。そして、情報を1度の機会に収集できる場が、まだまだ少ないと感じました。色々な不安や悩みを抱えたお子さんや保護者の方が、少しでも前向きになれるように、今後も様々な形で情報を提供できるように、努めてまいります。



当日の様子

当日は各学校のブース内で20分間毎の学校説明と、個別相談の2部構成で行い、約120名の方がご来場されました。夏休みということもあり、お子さんとご一緒にご家族でご来場されている方が多く見られ、各学校のブースにて、熱心に先生方の説明を聞いていらっしゃ

参加校

◎都立高等学校◎

通信制 : 砂川高等学校

特別支援学校 : 青峰学園

チャレンジ校 : 八王子拓真高等学校

エンカレッジ校 : 秋留台高等学校

◎私立高等学校◎

通信制 : 精華学園高等学校横浜アカデミー

聖パウロ学園高等学校、星槎国際高等学校

自然学園、八洲学園高等学校

サポート校 : 東京文理学院高等部、KTC中央高等学院

技能豊隼校 : 町田みのり高等部

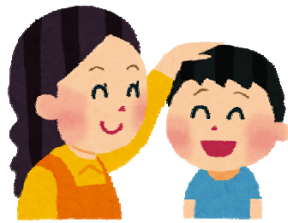
高等専修学校 : 芸術工芸高等専修学校

発達支援センター・セブクロバー 臨床心理科

小学生・中学生土曜日活動 S-フレンズ

土曜日のグループ療育活動S-フレンズでは、集団での活動や会話が苦手、友人間でトラブルが起こりやすいなど、集団活動や友達との関わりについてサポートを必要とする小学生・中学生を対象に“ソーシャルスキルトレーニング(SST)”を中心とした活動を行っています。SSTとは、運動活動や相談活動などを通して、実際の対人場面や社会場面で必要とされる社会的行動や、コミュニケーションスキルを学んでいくプログラムのことです。

S-フレンズは年度ごとに全16回ありますが、始めにそれぞれのお子さんの社会的行動を評価し、その後の回の中で、より適切な行動を段階的に習得できることを目指し、様々な活動を行っています。例えば運動活動では、体を使ったゲームを行う中で、一緒にやる友達の動きを見て動きを合わせることや、掛け声をかけることを練習します。また、見ている友達には応援を促しますが、「がんばれ」と声をかけることに躊躇してしまうお子さんもいます。しかし、“応援ポイ



ント”として、応援することでチームの点数になったり、シールがもらえたりするような工夫をすると、小さな声でも「がんばれ！」と言えるようになります。

相談活動では、推理ゲームを相談しながら進めたり、グループで行う活動を考えたりと、様々なことをテーマにして意見を交換します。適切な意見の伝え方や尋ね方、意見の調整方法について、大人が事前にモデルを見せ確認します。ついつい自分の意見ばかり主張してしまうお子さんには、近くにいる大人が「どうすればいいかな？」と声をかけ、適切な行動について確認します。大人からの手助けがあっても、お子さんが適切な行動をすることができた際には、「できた」という成功体験を積み重ねていけるよう「よくできたね！」「えらい！」とどんどん褒めるようにしています。また、何よりもお子さん達に「楽しかった！」「また来たい！」と感じてもらえるようなプログラムになるよう心がけています。

(心理判定員 足立 実)



地域機関とのつながり

～ 派遣事業・相談事業を通じて ～

国立市役所

国立市には現在、私立認可保育所が9園、公立認可保育所が4園、認定こども園が1園と私立幼稚園が8園、認証保育所が2園設置されています。

これまでは、各園、個別の研修等の実施や、外部研修に参加するなどにとどまっていた。そこで、平成26年度から島田療育センターのご協力のもと、行政主導による市内の保育施設等に通うすべての子どもたちにより良い保育環境を提供するため、公・私立保育園等、私立幼稚園の職員を対象とした研修事業を展開しました。本研修事業は各園それぞれの保育・教育方針や地域性等を活かした特色ある保育・教育を前提に、子どもの成長・発達を促し、その保護者も含めた家庭全体を地域で支えるための知識やスキルがまんべんなく行き渡ることを目指しています。

研修事業は3年目を迎え、現場の職員のリクエストや施策・課題と照らし合わせながら、徐々にではありますが研修の回数や内容も年度を重ねるごとに充実してきました。今年度は年8回、心理専門職の先生にお越し頂いています。

島田療育センターは地域への専門職の派遣について実績が豊富なので、困り感を抱える子どもたちの代弁者として、我々に新たな視点や支援のヒントを投げかけていただいています。保育施設等の現状を踏まえながら、明日からすぐに活用できるアイデアを提供いただいています。具体的かつ実践的な講義が好評で、なかには“リピーター”となって研修に参加する職員もおり、研修を受けることによって、園全体で日々の実践をふりかえるきっかけにしています。

今後はさらに、市が主催する研修事業を通して、知識の習得や実践力の向上のみならず、保育専門職同士の交流やネットワークの構築にもつながりたいと考えています。子どもたちへのあたたかなまなざしが地域に根ざしていくよう、子どもの育ちに関わる我々も共に育ち合う場のひとつとして、これからも研修事業に取り組みたいと思います。



全体研修の様子



グループディスカッションの様子

(国立市子ども家庭部児童青少年課保育・幼稚園係 山崎 瞳 氏)



質問：「こどもにどうやって話しかけてあげたらいいですか？」

回答：

大人が子どもに話しかける、「だいじょうぶ、だいじょうぶ」「そっと」「いっしょに」などの『かわりことば』にはいろいろありますね。コンパクトで子どもにも受け止めやすく心に残り、多くの大人から語りかけてもらうことで理解も進みます。

今回は、そうした『かわりことば』の中から「いっしょに」「はんぶんこ」についてお伝えします。

「いっしょに」

子どもや大人と「いっしょに」活動することは、人に対する意識や一緒に行動する力を育むだけでなく、情緒面にも良い影響を与えます。

「いっしょに」を教える際にもっとも効果的なのは、「歩くこと」のようです。一緒に並んで同じスピードで歩くように教えます。一緒に歩くことで人に対する意識が高まり、それが他の動きを真似ることにもつながっていくと思います。

また、「いっしょに」ができるようになる頃、ことばの真似も盛んになります。同じ音やことばを一緒に言うなど、ことばへの感受性が高まるように働きかけてあげると良いでしょう。歌やお絵かき、料理などさまざまな活動を通して、一緒にできる内容の範囲を広げてあげるのも良いと思います。

「はんぶんこ」

「はんぶんこ」は「いっしょに」のあとに続いてできるようになります。「いっしょに」で、他者の存在や動きに気づかせてくれるようになり、そこから「はんぶんこしよう」と食べ物などを分けるときに使われるようになります。

他者や周りへの気づきがまだ十分でないと、「はんぶんこ＝自分のものを取られること」と思ってしまいますが、「はんぶんイヤ」「はんぶんOK」から助け合いのスタートラインに立つことができるようになっていきます。「はんぶんこ」から、「あげる」ことが誇らしくなったら立派な成長ですね。

そして、相手への意識が生まれて「はんぶんこ」が使えるようになる頃に2語文が使われるようになり、周りの人への意識(＝社会性)が高まることと関係してきます。



参考文献：湯汲英史(2010)『子どもと変える 子どもが変わる 関わりことば 一場面別指導のポイント』明石書店

(言語聴覚士 豊田 隆茂)

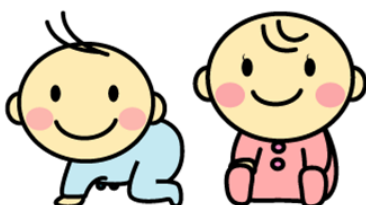


ダウン症児・グループ活動

ほっぺグループ

ほっぺグループは、多摩市から助成金をいただき、生後10ヵ月から4歳までのダウン症のお子さんを対象に活動している親子グループで、言語聴覚士(3名)が担当し、遊びの中で人と関わる力や感覚・運動面、食べる力を伸ばすことなどを目的とした活動を月2回行っています。今回はグループの活動をいくつかご紹介します。

まず手遊び歌では、「おはよう」「大きなタイコ」「頭・肩・ひざポン」などの歌を保護者と一緒にサインを交えて歌います。歌と一緒にサインを呈示することで、コミュニケーションの基礎となる“相手への注目”を促すことができ、ことばの理解や表出の手がかりにもなります。保護者とのスキンシップを通して、人との関わりの中で楽しむ、という会話の基礎となる意欲も育んでいけたらと思っています。



また、おやつ時間も設けており、言語聴覚士がお子さんのお食事の際の姿勢や口の動きを観察し、食べることに関する心配事や疑問にもお答えしています。お子さんのお口の機能に合わせて、ペースト、マッシュ、グラッセ等、形状の違う手づくりメニューを楽しんでいただいています。

ほっぺグループでは、年間を通して交流会、クリスマス会、卒業式など、季節のイベントがたくさんあります。特に交流会には、毎年現役生から卒業生(0歳～20代前半)まで幅広い世代のお子さん、ご家族が参加されます。先輩保護者からの貴重な体験談や近況報告を聞くことができ、親御さん同士の交流の場にもなっています。お子さん同士の交流はもちろんのこと、ダウン症児を持つご家族にとっての憩いの場となるようなグループにできればと思っています。

今後も、“親子で楽しみ”“仲間をつくり”“少し勉強をして”大きな集団に入るまでのステップになるよう、スタッフ一同、支援をしていきたいと思っています。



(言語聴覚士 黒柳 絢太)

島田療育センター わいわい祭り

天候に恵まれた9月10日(土)、わいわい祭りが開催されました。今年は“地域の方々にも楽しんでいただく”という従来の形に戻して企画しました。沢山の方にお越しいただき、盛大なお祭りになりました。そして、沢山の企業や皆様からご寄付やご協力をいただくことができました。

心より感謝申し上げますと共に、今後も参加される方々が“わいわい”となるようなお祭りにしていきたいと思っております。



おしらせ

お問い合わせ先：支援部 042-374-2101

お子さんについての気がかりやご心配などお気軽にご相談いただけます。

- 「なんとなく気になる」、「子育てに不安がある」、
- 「学校や園の先生から専門機関への相談を勧められた」
- 「子どもに必要な支援を知りたい」
- 「専門的な療育や発達検査を受けたいけど、診断を受けるのに抵抗がある」など...

お気軽にご相談ください

サービスのご利用は、島田療育センターにて定期受診、またはセブンクラブにて予約していただく方がおススメです。



地域療育等支援事業のご案内

施設支援一般指導事業

発達のご心配や障害のある方を受け入れておられる地域施設、機関職員の方を対象にご相談に応じます。

訪問療育等支援事業

地域施設や家庭へ赴いて健康診査や介護指導などを行います。

外来療育等支援事業(療育相談)

運動面やことばの発達、集団生活にうまくなじめないなどのご相談に応じます。

費用は無料です。

詳しくはホームページをご覧ください

「ST科講習会のおしらせ」

タイトル：「話しことばから書きことばへ～ことばや文字の発達について～」の講義と質疑応答

日時：10月27日(木) 10:00～11:30

場所：パルテノン多摩 4階 学習室

対象：ことばの発達が4～6歳くらいのお子さんをおもちの保護者・家族・関係者

定員：20名 (定員に達し次第、締め切らせていただきます。)

参加費：無料 (東京都障害児(者)地域療育等支援事業により実施)

「OT科講習会のおしらせ」

タイトル：「子どものやってみようを増やすかかわり方」の講義と質疑応答

日時：10月22日(土)、11/19(土) 10:00～11:30

※両日とも内容は同じです。

場所：パルテノン多摩 4階 2・3会議室

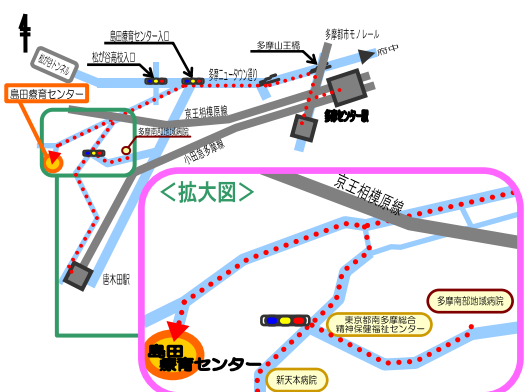
対象：就学前後のお子さんの保護者・家族

定員：各回20名 (定員に達し次第、締め切らせていただきます。)

参加費：無料 (東京都障害児(者)地域療育等支援事業により実施)

編集後記

「発生可能上映」、「極上爆音上映」、「ママズクラブシアター」など最近の映画館は映画の持っている娯楽性を最大限に引き出す企画を実施しています。私は静かに鑑賞することが好きですが、先入観や誰かが作った常識を覆して、「周りと一緒に大声で名シーンを盛り上げる」、「爆音の中で名シーンと名曲に酔いしれる」などの違った楽しみ方を取り入れた企画には脱帽しています。映画会とは全く違う業界に今は属しておりますが、しがらみを断ち切り、固い頭を柔らかくして、「楽しむ」、「喜ばせる」、「共感できる」などの視点で物事を発想していきたいものです。(湯本)



〈徒歩〉
多摩センター駅下車
→約20分

〈バス〉
多摩センター駅
バスターミナル12番
乗り場
「南部地域病院」行き
→約7分
終点「南部地域病院」
下車→徒歩5分

編集：社会福祉法人 日本心身障害児協会
島田療育センター 支援部

住所：〒206-0036 東京都多摩市中沢1-31-1

電話：042-374-2071 (代表)

E-mail：Info-room@shimada-ryoiku.or.jp

URL：http://www.shimada-ryoiku.or.jp